

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「生徒たちが『入学してよかった』と誇れる学校、保護者が『入学させてよかった』と安心できる学校、
卒業生が『母校』として胸を張れる学校、そして、地域からは『頑張れ』と応援してもらえる学校」をめざす。

- 1 「なりたい自分」の発見と、その実現に向けた教育活動を展開し、夢と志を持った生徒を育成する。
- 2 基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努め、互いの人権を尊重する気持ちを育み、人間力を高め、社会に貢献する人材を育成する。
- 3 地域連携とPTA活動の活性化に努め、「学校と地域」「学校と保護者」それぞれ相互の信頼を構築する教育活動を展開する。

2 中期的目標

1 確かな学力の定着

- (1) 少人数授業の展開やICTを活用した授業の拡充等により魅力ある授業づくりを推進し、学びの意欲を高め基礎学力の定着を図る。
 - (2) 研究授業の充実と授業アンケートの効果的な活用、そして経験の少ない教員を対象とした本校独自の研修の充実により、教員力・授業力の向上を図る。
- *生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（平成28年度62.5%）を毎年3ポイント上昇させ、平成31年度には70%以上をめざす。

2 多様な進路の実現

- (1) 多様な進路を実現するための進路支援システムを確立し、早期に進路目標を意識させる指導を行う。
- *卒業後に自己実現のための準備とするもの以外の進路未決定率（平成28年度4.1%）を、平成31年度には0%をめざす。
*進学希望者の中から、難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒を育てる。平成31年度には合格者を輩出する。

3 社会に貢献する人材の育成

- (1) 基本的な生活習慣の確立と規範意識向上に向けた取組みを推進するとともに、個々の生徒への支援体制を強化する。
 - ア 登下校時の交通安全指導を強化し、登校時の「あいさつ運動」を拡充させながら、自律の精神を育む。
 - イ スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）を活用した教育相談体制を確立させ、個々の生徒への支援体制を充実させる。

*生徒向け学校教育自己診断における校則やルールに対する遵守肯定率（平成28年度81.7%）を毎年3ポイント引き上げ、平成31年度には90%以上をめざす。
*生徒向け学校教育自己診断における教育相談に関する項目における満足度（平成28年度51.7%）を毎年5ポイント引き上げ、平成31年度には70%をめざす。
- (2) 特別活動を充実させ生徒の参加を促進することで、生徒の自己肯定感を醸成するとともに、学校への帰属意識を高める。
 - ア 学校行事や部活動において、生徒の自主性を高めるとともに、集団の中で他と調和しながら行動する能力を育成する。
 - イ 「堺上高杯」において地域や小中学校とのさらなる連携を図るとともに、運営を生徒が担うことによって、生徒の自尊心を育む。

*生徒向け学校教育自己診断における行事に対する満足度（平成28年度72.2%）を毎年5ポイント引き上げ、平成31年度には85%以上をめざす。
*生徒の入部率を（平成28年度39.7%）を毎年5ポイント引き上げ、平成31年度には50%以上をめざす。
*「堺上高杯」への参加校延べ数（平成28年度43校）を毎年5校ずつ増やし、平成31年度には60校以上をめざすことで知名度を高め魅力を発信する。

4 校内運営体制の改善と人材の育成

- (1) 分掌や各種委員会等の業務の見直しを行い、業務の精選と簡素化、業務量の適正化、情報の共有化をめざす。
- (2) 本校独自の育成事業「フレッシュミーティング」の開催や、府教育庁が推奨する各種育成事業の活用等により、経験年数の少ない教員の育成システムを構築する。

5 広報活動の充実と保護者や地域との連携の推進

- (1) 地域の小中学校等への広報の充実に努め、更なる連携を推進する。
 - (2) 保護者が積極的にPTA活動に参加できるよう、PTA活動内容の精査を行いさらなる充実を図る。また、保護者向けメール配信の内容を充実させ、学校の教育活動への理解を深める。
- *本校独自の「中高連絡会」の参加中学校数（平成28年度14校15名）を、広報を充実させることにより平成31年度には25校をめざす。
*保護者向けメールの登録者（平成28年度288名40%）を、平成31年度には80%をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学校教育自己診断全体の結果から】 ○昨年度、ほとんどの項目において近年最高値であった結果と比較して、大きな変化は見られないものの、全般的に肯定値が低下した。各項目について早急に検証を行い、次年度の改善に繋げたい。 ○依然として保護者の回答率が非常に低い（35.9%）ということが大きな課題であり、学校としてこの診断をどう有効に活用するかを保護者に周知徹底する方法に、さらなる工夫が必要であると思われる。</p> <p>【生徒の診断結果から】 ○本校の掲げる大きな柱の「学習面」で、昨年度に続き肯定的回答値が上昇していることは、教職員の創意工夫が実った結果である。 ○一方で家庭学習の習慣がついておらず、テスト期間以外は学習時間が0であるという生徒（54.6%）にどう意識付をするか、依然課題として残っている。 ○学校は、SCやSSWを活用しながら教育相談体制を確立しつつ、一部の深刻なケースには迅速に対応しているが、一般的な悩みを持つ生徒には周知できておらず、この点について次年度の課題としたい。</p> <p>【保護者の診断結果から】 ○「非常時の連絡の徹底」「PTAの活動内容」等、昨年度と学校として同じ取組みをしている（もしくはさらに改善を試みている）事項について、肯定回答値に低下が見られる。この原因をしっかりと見極めて対処していきたい。 ○何よりも、保護者の回答率を高める工夫を検討することが課題である。</p> <p>【教職員の診断結果から】 ○教員間の連携や校内研修についての肯定的回答値が大幅に上昇しており、それらが日常の教育活動にプラス効果をもたらすと大いに期待している。 ○進路指導や教育相談等の各項目から、生徒に寄り添う教員の意識の高さがうかがえる。それを自己満足で終わらすことなく、生徒・保護者にどう伝えていくかが課題である。</p>	<p><第1回>平成 29 年 6 月 26 日（月）開催 ○生徒の通学状況について ・登下校時の自転車の運転が危険である。指導を充実させ、十分気をつけてほしい。 ○社会に貢献する人材育成の観点から ・生徒をよく見て、伸ばしてくれる学校を期待している。校内のルールで縛るだけでなく、なりたい自分の発見、難関大学をめざす、資格取得等、目標を見つけさせることが必要。「校外の清掃活動」を生徒会やクラブ員と一緒にやってみてはいかがか。 ○広報活動について ・外へどれだけ学校の良さが伝えられているか検証も必要。地元広報誌の活用も。</p> <p><第2回>平成 29 年 11 月 15 日（水）開催 ○本校の「頭髪指導」について ・生徒指導全般にもっと厳しくしてもよい。 ・「就職・進学を見据えた指導をしているということ（社会では見た目で判断される。）」 「学校という組織の一員であるからには、自分だけの評価では済まない。学校全体の評価になるということ。」⇒この2点で指導をしていかなければならない。この学校で行っている指導は必要。ただし、教員が統一した意識で指導することは不可欠。 ・大学の面接においても、必ず評価項目に「身だしなみ」がある。高校生としてふさわしい身だしなみを指導することは大切。 ・「気づき、考え、行動する」指導を大切にしてほしい。</p> <p><第3回>平成 30 年 2 月 22 日（木）開催 ○学校教育自己診断結果をふまえて、H29 学校経営計画評価案について承認 ○学校教育自己診断に関し、小学校、中学校、高校での実施状況について情報交換を行った。保護者の回収率の低下については、同じ課題あり。 ○H30 学校経営計画案について承認 ・ただし、本校の「めざす学校像」について、「地域からは『頑張れ』と応援してもらえる学校」という部分について、何に対して応援してもらおうのか、明確に方針を持つておかなければならないと、指摘を受けた。 ○「生徒心得」の内容について確認・承認 ○次年度からの「学校運営協議会」の制度について説明 ○その他</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の定着	(1) 学びへの意欲を高める (2) 研究授業等の拡充	(1)・教育産業の「基礎力診断テスト」を効果的に活用することで、基礎学力の定着度を確認しながら、授業の課題を把握する。 ・少人数展開授業（英語・数学）等を活用し、生徒同士で互いに学びを高め合いながら、確かな学力を身につけさせる。 ・ICT機器を導入による環境整備とその活用を図ることにより、生徒の興味・関心を引き出す授業作りに取り組む。 (2)「フレッシュミーティング」と連動した、「授業見学まつり」と研究協議を継続実施し、課題を共有化し同僚性を活かした授業改善を図る。	(1)・生徒向け学校教育自己診断において授業満足度を65%以上に。(H28は62.5%) ・「全体授業と比較して分かりやすい」を85%以上に。(H28は80%) ・生徒向け学校教育自己診断において教材等の工夫満足度を80%以上に。(H28は77.2%) (2)・「授業見学まつり」参加教員数を40人に。(H28は25人) ・教員向け学校教育自己診断において「授業について他教科と話し合う機会がある」を65%以上に。(H28は63.7%)	(1)・授業満足度は 62.7% (△) 「基礎力診断テスト」によると、上位層の生徒を伸ばしきれていない結果となった。次年度の課題としたい。 ・少人数授業に対する肯定的回答は 86% 授業観察においても全体授業と比較して生徒の積極性が見られた。(○) ・3年生の全教室にプロジェクターを設置したことで、ICT機器を活用する教員が増加した。教材等の工夫満足度 76.7% (△) (2)・「授業見学まつり」参加教員数延べ 72人 (◎) 研究協議も活発な意見交換の場となった。 ・「授業について他教科と話し合う機会がある」は 55.3% (△)
2 多様な進路の実現	(1) 早期に進路目標を意識させる指導の充実	(1)・外部講師等による進路講演会の実施や就職支援コーディネータの活用、内定者指導、進学講習、卒業後の進路追跡調査等、個々の進路に応じたきめ細かな進路指導を行う。 ・医療看護系や4年制大学進学希望者向けには個々の進路に応じた個別講習を実施する。 ・年2回の大学見学会について内容の充実、参加者増に向けた広報の工夫に努める。 ・漢検・英検・パソコン検定の受検促進を図る。	(1)・離職率の減少 (H29卒業生に向けて) ・難関私立大学・国公立大学にチャレンジする生徒複数名 ・進学講習参加者を40名以上に。(H28は37名) ・2回の大学見学会参加者数を昨年より増に。(H28は70名) ・H28漢検23名、英検34名、パソコン検定51名の受検者の10ポイント増をめざす。	(1)・昨年度の卒業生について追跡調査を行っているが、データ収集が難航している。今年度強化した内定者指導の結果は今後調査する予定。 ・昨年より難関である私立大学にチャレンジした生徒は 8名 (○) ・進学講習参加者は 58名 (◎) ・大学見学会参加者数は 64名 (△) ・漢検 112名 、英検 57名 、パソコン検定 32名 受検。大幅に受験者増となったものと減になったものとに明暗を分けたが全体では1.8倍となった。(◎)
3 社会に貢献する人材の育成	(1) ア 基本的生活習慣の確立と規範意識の向上 イ 個々への支援体制の強化 (2) ア 特別活動の活性化 イ 部活動等における地域や小中学校との連携	(1) ア・大阪府の自転車条例をふまえ、自転車事故防止やマナー向上のための講習会を、警察等と連携して実施するとともに、登校時の「あいさつ運動」「自転車登校マナーの声掛け」「駐輪指導」を並行して実行する。 ・遅刻回数による段階指導や遅刻防止週間、入室許可書等これまでの指導システムを継続させながら遅刻数の減少に取り組む。 ・服装マナーの指導を徹底する。 イ SCとSSWを活用した教育相談体制を充実させ、個々のケースに迅速に対応できる組織の確立に努め、外部機関との適切な連携を図る。 (2) ア・体育大会や文化祭等の学校行事だけでなく、中学生向け学校説明会においても生徒会役員やクラブ員が活躍する場を設け、本校の活動について中学生にアピールすることにより、生徒自身のマネジメント力を高めるとともに、自己肯定感を醸成する。 ・入学後の体験入部の実施方法に工夫を加え、1年次の加入率を上げる。 イ「堺上高杯」について、文化部の参加も含め組織的に充実させ、地域の学校との連携を深める。	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断で、校則やルールの遵守肯定度を84%以上に。(H28は81.7%) ・自転車事故件数について、H28の4件以下に減少させる。 ・遅刻統計の総数で平成28年度(8,103回)の10ポイント減をめざす。 イ・SSWを招聘したケースワークを継続して定期的開催する。 ・「担任以外にも相談できる先生がいる」の肯定度を55%以上に。(H28は51.7%) (2) ア・生徒向け学校教育自己診断において、行事満足度を75%に。(H28は72.2%) ・1年次の加入率を、50%以上、全体の加入率を45%以上をめざす。(H28はそれぞれ45.2%、39.7%) イ第2回「堺上高杯」を文化部を含めた形で計画的かつ組織的に実施し、参加校数・参加人数10ポイント増をめざす。(H28は延べ43校710名)	(1) ア・「あいさつ運動」「駐輪指導」は昨年並みの実施にとどまった。 校則やルールの遵守肯定度 79.9% (△) ・自転車事故件数 2件 (○) ・遅刻統計の総数 6,624回 昨年度比 10ポイント以上の減 となった。(◎) イ・SC及びSSWを活用した教育相談体制は委員会を毎週開催し、生徒情報を共有しながら磐石なものとなりつつある。(○) SCの活用については、派遣日数10日の中で、相談件数21件、ケース会議2回、職員研修1回とハードなスケジュールとなった。 体制は整いつつあるが、生徒全体に還元することは難しく、自己診断の結果は、「担任以外にも相談できる先生がいる」が 46.1% (△)と低迷した。 (2) ア・特に体育大会については、実行委員会形式で新たな取組みに挑戦した。 行事満足度は 67.8% (△) ・学校説明会においては、生徒会役員、クラブ員が中学生に向け説明やアピールを行った。 ・1年次のクラブ加入率は 44.5% 全体の加入率は 42.4% で、伸び悩んだ。(△) イ第2回「堺上高杯」の開催について、文化部を含めた形は実現困難であった。(△) 参加校数・参加人数は 57校804名 となり、昨年度比10ポイント以上の増となった。(◎)

4 校内 運営 体制 の 改善 と 人材 の 育成	<p>(1)分掌や各種委員会等の業務の見直し</p> <p>(2)経験年数の少ない教員の育成</p>	<p>(1)・業務内容を整理し、業務の精選と簡素化、業務量の適正化、情報の共有化をめざす。 ・将来構想委員会をさらに活性化させ、新たな取組提言や提案を促し、その具現化に取り組む。</p> <p>(2)・首席を中心とシタフレッシュミーティングにおいて、授業力はもとより分掌業務や担任業務等などの研修を実施し教員力の向上を図る。 ・人権研修等の教職員研修の実施に際し、外部講師を積極的に招聘し、実態に即した内容となるよう創意工夫を行う。</p>	<p>(1)教員向け学校教育自己診断における「各分掌等が有機的に機能している」について80%をめざす。(H28は75.6%)</p> <p>(2)・「校内研修が計画的に実施されている」を80%以上を維持(H28は80.0%) ・「教育実践に役立つ内容となっている」を75%以上に。(H28は70.4%)</p>	<p>(1)「各分掌等が有機的に機能している」について肯定的回答は61.7%となった。(△) ・業務量の適正化については、各分掌の担う業務の分野が異なり、さらに検討が必要である。(△) ・将来構想委員会では、新たな取組みのアイデアや、学校経営計画への提言等、前向きな意見が出された。(○)</p> <p>(2)・今年度は府教育庁の「育成支援チーム事業」を活用し、ミドルリーダーの育成に取り組んだ。参加者の約9割がこの研修を肯定的に評価している。(○) ・「校内研修が計画的に実施されている」は89.4%(◎) ・「教育実践に役立つ内容となっている」は78.7%(◎)</p>
5 広報 活動 の 充実 と 保護 者 や 地域 との 連携 の 推進	<p>(1)小・中学校への広報の充実とさらなる連携の推進</p> <p>(2)PTA活動のさらなる充実</p>	<p>(1)・全出身中学校に対し広報に努めるとともに3月に新入生の状況把握を行い個別の支援の一助とする。 ・本校独自の中高連絡会を実施し、生徒状況等について共有化を図る。同時にHPの内容の充実させることで、タイムリーに情報を発信する。 ・地域の小・中・高の教員間で授業見学等の交流を更に促進させる。</p> <p>(2)・PTAの一日研修や教養講座の参加促進を図る。 ・PTAの活動についてのHP内容を充実させ、保護者向けメール配信「365日いつでも初」の登録者を増やすとともに発信内容の充実を図る。</p>	<p>(1)・全出身中学校と連絡を取り、生徒の状況把握を行う。(50校) ・中高連絡会参加20校をめざす。(H28は14校) ・本校HPの訪問者数を年間13,000件以上めざす。(現在年間約12,700件)</p> <p>(2)・PTA主催の研修について定員に対し、100%の参加数をめざす。(H28は総数137/150人、91%) ・「365日いつでもネット」登録率50%以上をめざす。(H28は40%) ・保護者向け学校教育自己診断における「365日いつでもネット」に対する肯定回答数を10ポイント増とする。(H28は67.7%)</p>	<p>(1)・全出身中学校50校と連絡を取り、生徒の状況把握を行った。(○) ・中高連絡会参加8校8名にとどまった。日程について要望があったことを受け、検討したい。(△) ・本校HPの訪問者数は本年度3月時点において14,000件を超えた。(◎) また、新年度に向け、HPを刷新する作業を行っており、今年度末には完成予定。 (2)・PTA主催の研修について、参加率は77%(116/150)(△)と伸び悩んだ。しっかり内容を検証し、次年度の参加数を伸ばしたい。 ・保護者向けメール「365日いつでもネット」の登録率は54%となった。(○) ・「365日いつでもネット」の内容について、保護者のニーズに応えるよう工夫をしたが、肯定回答率は伸び悩み、66.8%(△)にとどまった。</p>